

5 「動作化」を生かして文章表現に着目させましょう

「動作化」を通して考えたことや、これから取り組もうと考えていることを、ノートなどに書くことによって、「登場人物の気持ち」などを想像する読みを深めることができます。

教師からの問いかけや例示が大切です

次に示すのは、「スイミー」（光村図書2年上）における教師の例示と児童がノートに記述した例です。クイズ形式での例示と説明をしたうえで、「やってみたいもの」を児童に選ばせ、次に「どんなふうに取り組みたいか」をノートに書かせます。

「スイミー」（光村図書2年上）における教師の例示・説明と児童のノート例

例示

「スイミーは、だんだん、元気をとりもどした」のは、どんなものを見たからですか。全部で六つ、あげてください。（略）

そのとおり。それらが「素晴らしいもの」で、「おもしろいもの」だったから、スイミーが元気をとりもどしたのですね。では、その六つのうち、どれか一つを選んで、その様子を体や顔の表情で表してみましょ。まず、先生が、あるものについてやってみますから、当ててください。教科書は閉じてください。ではやります。わかったところで、だまってノートに答えを書いてください。

*用意するもの（黒系のネクタイ、割り箸の先などに付けた小さな魚のペープサート）

説明例



小さな魚を、ネクタイの細いほうから上にたどるようにして動かしながら、次のように言う。「これは何だろう。ぼくと同じ色をしているよ。ずいぶん長いな。大きいな。あれ、動いてる、くねくねと。ゆっくり、ゆったり。ずうっと続く、くねくね道。あれ？目玉だ。お魚さんだったのかな？じゃ、さっきのはじめのほうは、しっぽだったのかな。」

児童のノートから



ぼくは、うなぎをやってみたいです。先生が、「くねくねと」「ゆっくり」「ゆったり」と言ったところが、とてもたのしかったです。ぼくがやるときは、ネクタイじゃなくて、ながいゴムみたいなものでやりたいです。

わたしは、もも色のやしの木みたいないそぎんちゃくをやりたいです。先生がクイズで、もも色をしたいろんなものを出したり、風にゆれるようすを、たのしそうに見せたりしてくれたので、わたしも、やってみたくまりました。わたしがやるときは、魚のクマノミもとうじょうさせたいです。

感想の書き方を例示することも大切です

ただ書かせるのではなく、どのように書けばいいのか、イメージがわくように、書き方を例示することも大切です。次に示すのは、「すいせんのラッパ」（東京書籍3年上）の例示と児童の感想の例です。

「すいせんのラッパ」（東京書籍3年上）

例示

今日は、先生が「すいせん」の気持ちになって音読をしたり、「すいせん」の様子を体で表してみましたね。先生ががんばったことや工夫したことをノートに書くとしたら、こんな感じになるかな、ということを大きな紙（模造紙）に書いてきました。読んでみます。

「先生は、まず8ページの「大きく息をすって」というところと「すき通った音が、池をわたり、地面をゆさぶり、おかを上って、むこうの空にきえます」というところを、どんな感じで読めばいいのか、お家で何でもれんしゅうしてきました。「すき通った音」をどう表すか、とてもむずかしかったのです。でも、みなさんが、「目をまんまるにして、うんとせのびをして」というところをよく表してくれたので、とてもうれしかったです。」

みなさんも、今日、自分で音読したり体で表したりしてみたことを思い出して、がんばったことや工夫したことを、ノートに書いてみましょう。

児童のノートから



ぼくたちのほんでは、かえるとありになって、こうたいでれんしゅうしました。

ぼくは、かえるのやくがすきです。とくに、みどり色のリボンのようなかえるが、きどった声で言うところがすきです。「はあい」という言いかたを、ちょっときどったかんじで言ってみました。

それと、くるんとちゅうがえりするところは、きょうしつの前の方で、ころがりながらやりました。ありやくの山田さんと川しまさんが、手をたたいてくれたので、とてもうれしかったです。こんどは、ありのやくにちょうせんしてみたいです。

ワンステップアップ

このように、例示を参考にさせることで、児童は、自分が行った「動作化」をどのように振り返ればいいのかについてのイメージを具体的に得ることができます。その結果、自分が分担した役割に関する文章表現の理解を、文脈に即して考えることとなります。また、教師は、児童の記述内容を読むことにより、文章内容をどの程度理解したかについて把握し、その後の指導の参考にすることもできます。